

令和2年度 学校研究

1 研究主題

「生徒が主体的に学び、思考を深めることができる授業の実践」
～聴き合い・話し合いの場面、振り返りを通して学びを深める～

2 主題設定の理由

本校では一昨年から2年連続で「生徒が主体的に考え、学び合い、探究し続けていく授業の実践」を研究主題とし、授業改善を研究の柱と位置づけてきた。昨年度は、学びを深めるための「話し合い活動」と学びの自覚につながる「振り返り」の2点を重点事項として研究を進めてきた。

その中で、昨年度は各授業において、授業の流れの可視化や振り返りの時間を設けるなど、どの教科でも共通してUD化を進めることができた。また、話し合い活動として、意見の交流の場が多くの授業で取り込まれることになり、積極的に自己の考えを述べる場面が増えてきている。さらに、生徒会・リーダー会の温かい集団づくりへの取り組みが、個々の生徒の生活意欲や学習意欲につながってきており、クラス、学年といった学習基盤づくりの重要性も改めて確認することができた。

しかし、授業においては、話し合いの場が、学びを高め合うための話し合いになっていたのか、個人の思考の深まりにつながっていたのかということには課題が残った。その話し合い活動が、ねらいに即したものであったのか、集団で行うことでより価値が高まる時間になっていたのかなど、学習課題の検討も含め、研修する必要がある。さらに、学習集団としての質の高まりを目指し、お互いの話を聴く、自分で考える、そして考えを表現する場としての話し合いの場面の工夫が必要なのではないだろうか。また、生徒からの言葉の引き出し方や、教師からの発問、切り返しの方法、生徒同士のつなげ方など、コーディネーターとしての教師の力も必要である。

振り返りについては時間的確保がされつつも、その内容については十分ではない部分があり、生徒自身、学びが自覚化されているとは言い切れず、その深まりをどのように図っていくかが課題として残っている。振り返りまでを含めて一連の流れとして学びの深まりを目指す必要がある。

また、今後の評価の観点の変更にも留意して、生徒の学びを深めるだけでなく、その学びを見取る手段や方法も考えなければならない。

学習基盤整備においては、生徒自身が学習の重要性を自覚するとともに、学んでいこうという意欲を持たせるための工夫を、リーダー会や生徒会などの生徒自身の自主的活動となるように取り組んでいくことで、主体的に探究し続ける生徒が育っていくと考えられる。そのことが、生徒自身にとって有意義な学習習慣の定着にもつながるはずである。

そこで、今年度は「生徒が主体的に学び、思考を深めることができる授業の実践」を研究主題とし、「聴き合い・話し合いの場面づくり」と「振り返りを含めた学びの深まり」に重点を置き、研究を進めていきたい。

「聴き合い・話し合いの場面づくり」については、生徒が話し合いたくなるような課題の設定とともに、お互いの考えをまず聴き、自分の考えを表現する場を継続してつくるように心がける。また、新たな発見や気づきが生まれるようにするための思考過程を促す発問や思考ツール、コーディネートの工夫を進めたい。そして、聴き合える・話し合える学習集団を築くための学習基盤づくりも1つの柱としてとらえていく。

また、「振り返りを含めた学びの深まり」の中には、1時間の授業及び活動のまとめとしてだけでなく、次の学び・活動への意欲につながるためにも、単元全体を見通してのゴールの姿を念頭においた単元計画の重要性も考えられる。その上で評価を含めた研修を行ってきたい。

なお、研究の推進にあたっては教職員のさらなるコーディネート力・実践力の向上に向けて、校内研修を年間計画に盛り込み、授業改善に向けた研修を行っていくこととする。また学習指導部、生徒指導部、教科部会、学年部会との連携を図りながら、教職員全体にとっても実りある研究の推進に努めていきたい。

3 研究の手立て

(1) 授業改善の取り組み【今年の重点目標】

①聴き合い・話し合い活動や学びの深まりに向けて

- ・単元を通して身に付けるべき力を教師と生徒が共有できるようにする。その上で単元全体を見通した計画、および単元全体の振り返りができるように工夫をする。
- ・主体的・意欲的に活動できる課題の設定を行う。
- ・ワークシートなどに思考ツールを用いて、生徒が情報を整理できる工夫を行う。
- ・個人思考・集団思考、そのあとの個人思考ができるよう、適切な時間の確保に努める。
- ・授業の最後に生徒が自分の言葉で振り返りができるようにする。
- ・課題とまとめに整合性があり、学びの実感や達成感のある振り返りを行う。
- ・効果的な学習形態（ペア学習・グループ学習）や発表形態（話型）の工夫をする。

②教師同士の学び合い

- ・校内研修を通して、研究の方向性や授業改善にむけた取り組みの共通理解を図る。
- ・提案授業を通じて、生徒の主体性や対話を意識した授業実践に向けた教職員間の共通理解を図る。
- ・授業互見週間を通じて、教職員間で授業の検証を行ったり、授業改善の一助とする。
- ・校内サポート事業の活用や外部講師の招聘をもとに、指導助言を得る。

③授業のUD化

- ・本時の「学習課題」と「今日の流れ」、「まとめ」を板書する。
- ・担任は黒板に余分なものを貼らず、集中できる環境づくりに努める。

④生徒による授業アンケートを生かす

- ・全国学力・学習状況調査や県基礎学力調査を分析し、授業改善に生かす。
- ・生徒による授業アンケートを学期ごとに行い、分析・実態把握をし、授業改善に努める。

⑤小中連携を生かす

- ・小中連携の中で、全国学力・学習状況調査や県基礎学力調査の結果を共有し、分析を行い、系統的な指導と授業改善に役立てる。
- ・教師の発問やコーディネートの方法など、小中の校内研修会の相互参加等により小学校の先生方の手法から学ぶ。

(2) 学習基盤の整備

①学級経営・教科指導の充実

- ・教師と生徒、生徒同士が、温かい人間関係、信頼関係で結ばれ、高い目標に向かい切磋琢磨する学級集団、学習集団の実現を目指し、学級経営、学習指導にあたる。

②授業規律の確立～行動目標：学ベル「み・ゆ・き」4箇条～

- ・ベル学（チャイムとともに授業を始める）
- ・きちんとした礼・挨拶
- ・正しい姿勢・服装で授業を受ける。
- ・話をしっかり聴く。

③絆づくり・集団づくり

- ・生徒会やリーダー会活動を充実させ、生徒の主体性を育むことや集団生活の向上に努める。

- ・学活や学校行事などを通して、仲間づくりや集団づくりに努める。

④家庭学習の充実

- ・集会や学活などを利用して、学習に対する意欲喚起や自覚を促す。
- ・生徒が見通しを持って学習に取り組むために、各教科の課題の提出日を曜日ごとに分けて設定する。
- ・計画的で継続的な家庭学習のために、各教科でどの程度の宿題が出ているのか、生徒も教師も分かるように小黒板に提示する。
- ・定期テスト前の学習時間の確保を図るために、テスト計画表を作成させ、担任が点検・助言を行い、意欲化につなげる。

(3) 道徳教育の充実

①「考え、議論する」道徳授業の実践

- ・模擬授業や研究授業を通して、道徳の授業力向上を図る。
- ・「中心発問の吟味」や「教師のコーディネート力」、「話し合い」を意識した授業づくりに心がけるとともに、構造的板書の工夫を図る。

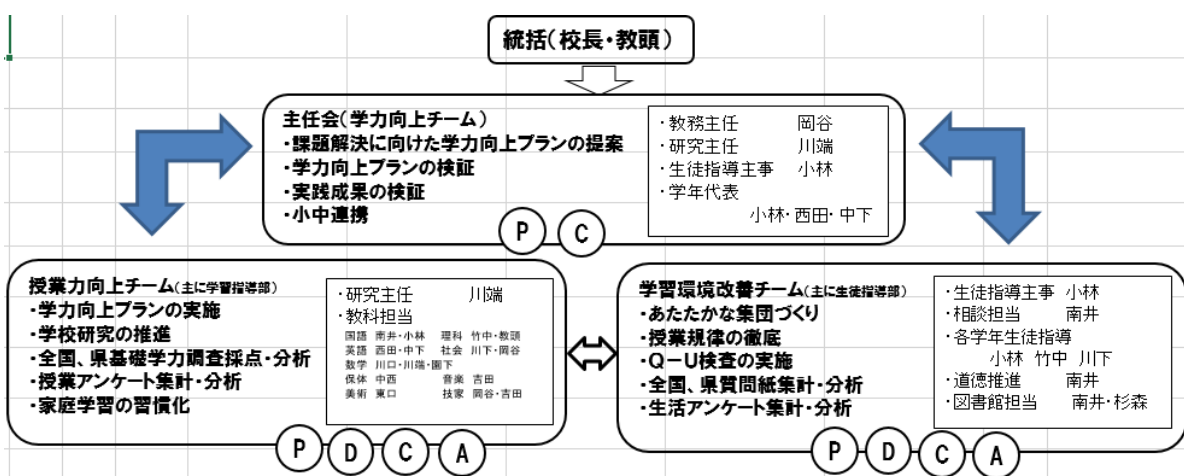
②ローテーションTT道徳の実施

- ・学級担任以外の先生がT1（学級担任がT2）となり授業を行う。

③地域人材などの活用

- ・教材に適したゲストティーチャーの招聘，教育講演会の実施などを通して，地域と連携して道徳教育を推進する。

4 研究組織



5 研修計画

4月	・校内研修（御幸中における今年度の授業の方向性）（特活・道徳・総合について）
5月	・校内研修（計画訪問に向けて） ・計画訪問 ・学習アンケート【アンケートの分析及び対策】
6月	・校内研修（計画訪問に向けて） ・授業力向上（互見）週間
7月	・学習アンケート【アンケートの分析及び対策】
8月	・校内研修（1学期の振り返り・各教科の評価方法・2学期の授業改善に向けて）
9月	・授業改善に向けて

10月	・校内研修（授業改善に向けて）
11月	・授業力向上（互見）週間
12月	・校内研修（2学期の取り組みの反省と3学期に向けて） ・学習アンケート【アンケートの分析及び対策】
1月	・校内研修（授業改善に向けて）
2・3月	・校内研修（今年度の反省と来年度に向けて） ・学習アンケート【アンケートの分析及び対策】

6 研究構想図

